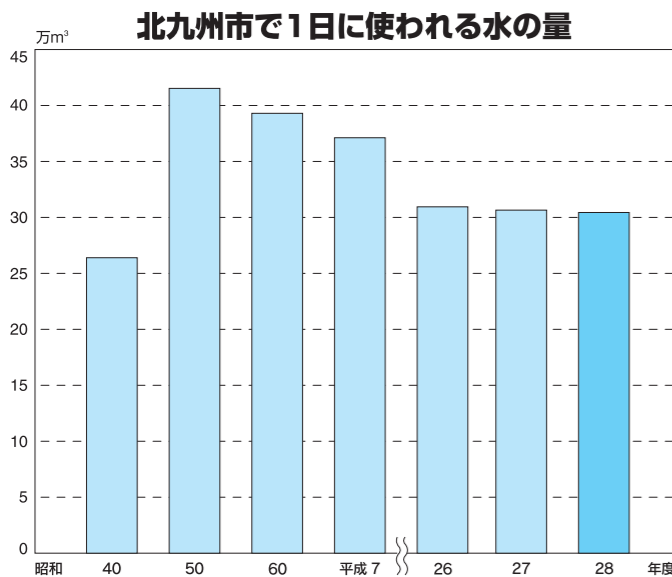




使われた水の量は、  
どのようにうつりかわっているのだろう。

北九州市で使われる1日の水の量を平成28年度と昭和40年度でくらべてみると、平成28年度は約1.2ばいにふえています。  
(学校のプールで約190ばい分もふえています。)

しかし、人口が減ったり、水をあまり使わない洗たく機やトイレなどがふえて、水を大切に使うようになったりしたため、全体で使われる水の量は、少しずつ減ってきています。

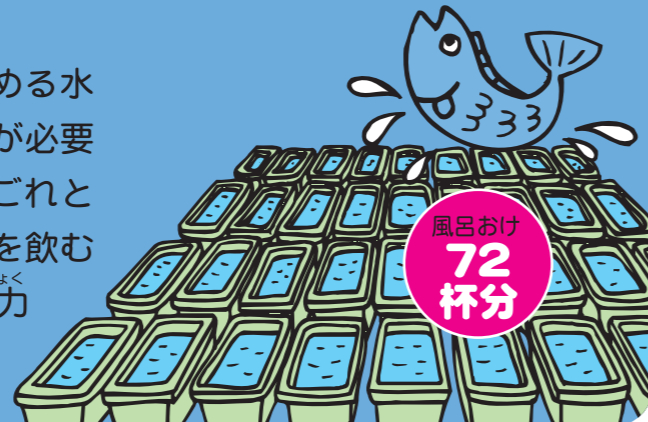


スイッピーの『知ってるかな?』コーナー

牛乳1Lを台所で流せば、魚がすめる水にするために風呂おけ(300L)72杯分の水が必要です。

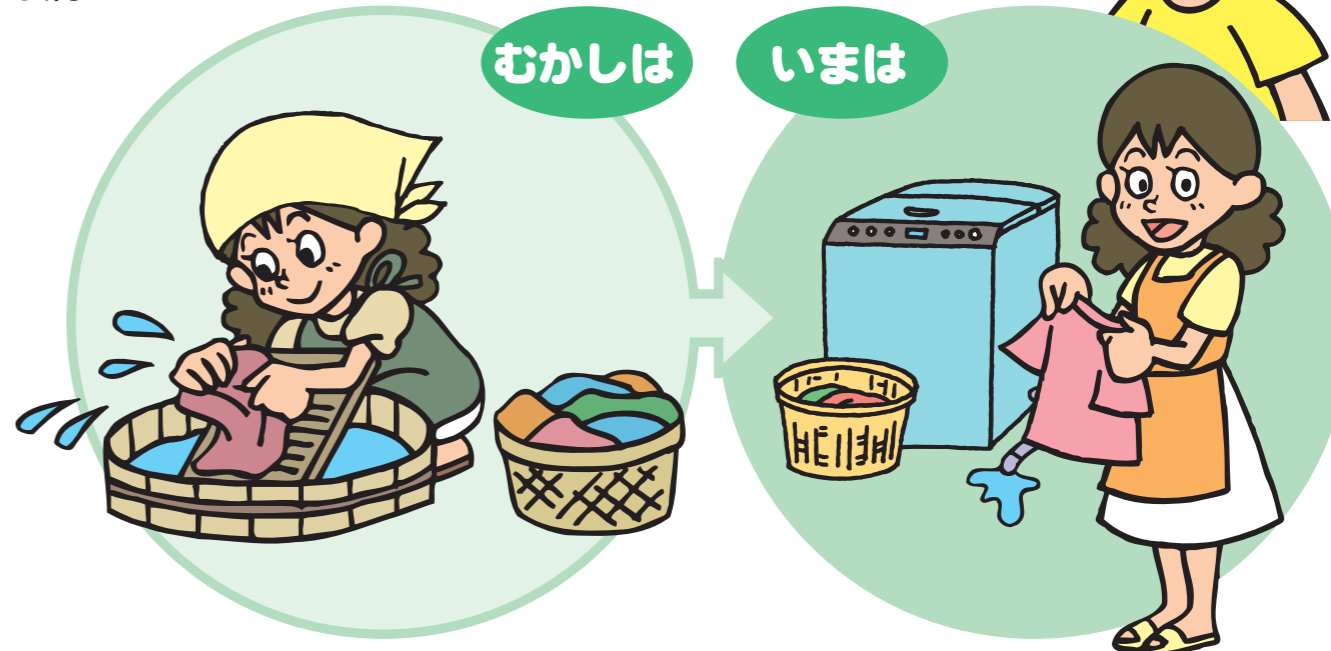
北九州市の水源である遠賀川は、この数年、九州の1級河川の中でもっともよごれた川の一つとなっています。遠賀川をよごしている最大の原因は、「生活排水」です。

たとえば、牛乳1Lを台所で流せば、魚が住める水にするために風呂おけ(300L)72杯分の水が必要です。生活排水は、わたしたちの飲み水のよごれとなってはね返ってきます。おいしい安全な水を飲むためには、ふだんの生活で水をよごさない努力をしなければなりません。

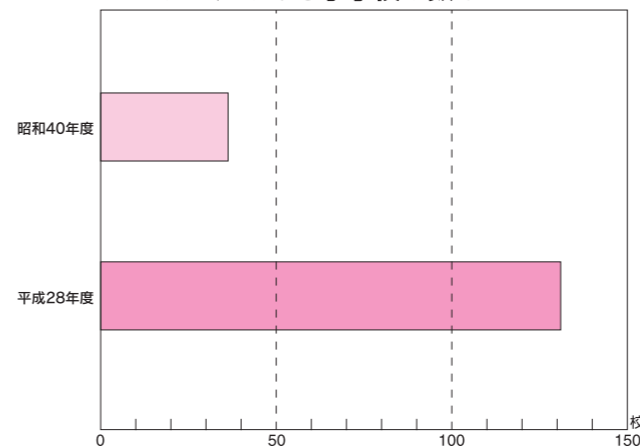


たくさんの水が使われるようになったのは、どうしてだろう。

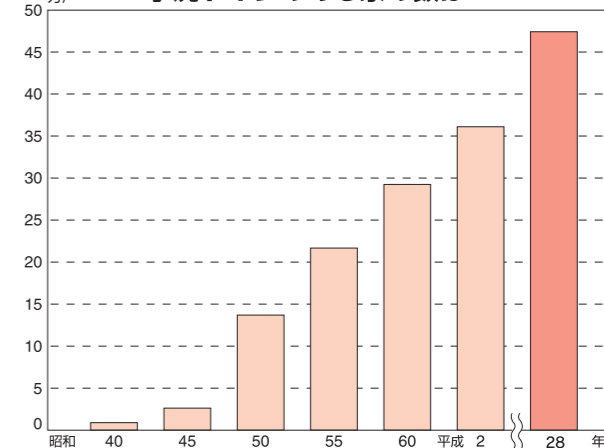
●洗たくのしかたは……



プールのある小学校の数は……



水洗トイレのある家の数は……



むかしの洗たくは、洗たく板やたらいを使って手で洗っていましたが、今はほとんどの家が洗たく機で洗っています。それに水洗トイレもふえました。

学校のプールがふえたり、まちにはふん水や公衆トイレがつくられたりするなど、わたしたちのくらしは水をたくさん使う生活にかわってきました。



生活のしかたがずいぶんかわったんだね。

★指導上の留意点★  
水の使用量が産業の発展や生活水準の向上などと関係のあることを考えさせてください。